

調べものの部屋には、中高生が調べものをするのに役立つ本など約1万冊があります。その中から3か月ごとにテーマを決めて選んだ本を、ウェルカム展示として入口で紹介しています。

※このリストは、展示時点で担当者が選んだものであり、テーマに関する網羅的な資料リストではありません。

12月になると、街にはさまざまな装飾とともに色とりどりの光があふれます。

人は、光とともに暮らしてきました。特に、冬は希望や祈りを光に託す季節です。

そんな季節に、さまざまな視点や角度から選んだ「光」に関する本をご紹介します。

光

テーマ：

▶ リストの見方

No.	書名 著者名(出版社, 出版年)【請求記号】	【 】の中は調べものの部屋の請求記号で、日本十進分類法(NDC)を元にしていません。
-----	---------------------------	--

▶ 平安時代の「光」

1	平安大事典：ビジュアルワイド：図解でわかる「源氏物語」の世界 倉田実 編 (朝日新聞出版, 2015) 【210.36】	「源氏物語」の時代を生きた貴族たちの生活をテーマごとに解説したこの本では、照明器具や月に関する行事など、当時の人たちがどのように光と関わって暮らしていたか知ることができます。
2	源氏物語 上 (日本の古典をよむ；9) [紫式部] [原著], 阿部秋生, 秋山虔, 今井源衛, 鈴木日出男 校訂・訳 (小学館, 2008) 【913.3-ゲン】	第二十五帖「蛩」。頭中将と夕顔の娘、玉鬘(たまかづら)に恋する蛩兵部卿宮(ほたるひょうぶきょうのみや)。五月の夜に玉鬘のもとを訪れますが、そのごちない逢瀬に、二人の仲をとりもつ光源氏が解き放つ蛩の光が印象的な物語です。

▶ 「光」の祭り

3	図説ヨーロッパの祭り 谷口幸男, 遠藤紀勝 著 (河出書房新社, 1998) 【386.3】	1年のうちで最も日照時間が短い冬至(12月22日頃)に、ヨーロッパ各地では闇を追い払い太陽の復活を祝う祭りが行われています。ヨーロッパの祭りを集めたこの本では、その冬至祭とクリスマスとのつながりについても紹介しています。
---	---	--

▶ 科学の「光」

4	光と重力ニュートンとアインシュタインが考えたこと：一般相対性理論とは何か (ブルーバックス；B-1930) 小山慶太 著 (講談社, 2015) 【421.2】	アイザック・ニュートンとアルベルト・アインシュタイン。光と重力に魅せられた彼らのそれぞれの理論を解説するとともに、孤高の科学者とされる二人の類似性について、興味深いエピソードも紹介されています。
5	「ロウソクの科学」が教えてくれること：炎の輝きから科学の真髄に迫る、名講演と実験を図説で (サイエンス・アイ新書；SIS-423) マイケル・ファラデー, ウィリアム・クルックス 原著, 尾嶋好美 編訳, 白川英樹 監修 (SBクリエイティブ, 2018) 【430.4】	「ロウソクが燃える現象には、この宇宙を支配する法則がすべて関わってきます。」(「序に代えて」 p.14) 1860年、科学者マイケル・ファラデーが、英国王立研究所で子どもたちを対象に行ったクリスマス講演録『ロウソクの科学』を、写真や図版を多用し分かりやすく解説しています。
6	天野先生の「青色LEDの世界」：光る原理から最先端応用技術まで (ブルーバックス；B-1932) 天野浩, 福田大展 著 (講談社, 2015) 【549.8】	青色LEDを発明し、赤崎勇氏、中村修二氏とともにノーベル物理学賞(2014年)を受賞した天野浩氏が、青色LEDの原理やLEDの材料である窒化ガリウムの研究が将来にもたらす可能性について、分かりやすく説明しています。

▶ 「光」を放つ生き物

7	ホテルの光は、なぞだらけ：光る生き物をめぐる身近な大冒険 (くもんジュニアサイエンス) 大場裕一 著 (くもん出版, 2013) 【481.7】	地球上に数万種はいると言われながら謎の多い発光生物。その謎にせまる研究をやさしく解説し、科学者を目指す人にとって大切なことは何かを伝えています。
---	---	--

▶ 「光」と創造

8	光の旅かげの旅 (絵本の部屋・しかけ絵本の本棚) アン・ジョナス 作, 内海まお 訳 (評論社, 1984) 【141】	白(光)と黒(かげ)。天と地。同じ紙面に描かれているのに、視点を変えると世界が変わって見える不思議な絵本です。
9	藤城清治 光と影の世界 藤城清治 著 (平凡社, 2012) 【726.8】	影絵は、光と影が織りなす芸術です。影絵作家 藤城清治の米寿(八十八歳)を記念して、これまでの作品の軌跡を彼自身の言葉や関係者のエッセイなどとともに辿ります。
10	光が照らす未来：照明デザインの仕事 (岩波ジュニア新書；666) 石井幹子 著 (岩波書店, 2010) 【545.6】	建物のライトアップやイルミネーションなど、照明を用いて景観をデザインする「照明デザイナー」の石井幹子が語る半生は、日本の社会で「照明デザイン」そのものが認知されていく歴史の記録でもあります。

過去の展示の資料リストは、当館HP上の「ウェルカム展示」に掲載しています。(https://www.kodomo.go.jp/use/room/teens/exh.html)